

未来投資会議（第6回）後の
石原経済再生担当大臣記者会見要旨

- 日時 : 平成29年3月24日（金）19:05～19:15
- 場所 : 中央合同庁舎8号館1階S101・103 会見室

1. 冒頭発言

第6回「未来投資会議」の概要を申し上げます。

本日は、ローカルアベノミクス、特にスポーツと農業 ICT、そして、大学を中核としたイノベーションの推進について議論しました。

本日はプレゼンターがいらっしゃいました。

Bリーグチェアマンの大河さんと、Bリーグを中心にまちづくりを進めていらっしゃる豊橋市長の佐原さんから、商業・サービス、観光消費の起爆剤としてアリーナを整備していくという構想について御説明がありました。

農業について、神奈川県山森農園の山森さんと、農業への ICT 導入による経営改善と、データプラットフォームを作っていくとされている慶応大学の神成准教授から、農業への ICT 導入による経営の改善、すなわち売り上げの向上にはデータプラットフォームが非常に重要であり準備しているというお話を伺いました。

東大の五神総長から、日本の強みとしてのストックである人材・知識・インフラの活性化と、新たな投資に向けた大学の活用についてのプレゼンテーションがありました。

次に、これらの取りまとめを担当していただいている三村会長から、取りまとめ内容の御説明がありました。その内容ですが、スポーツを核とした地域活性化も、農業への ICT の導入も、実はポイントは民間の経営感覚を最大限に活かせる仕組みを作れるかどうかにあるという、経営者ならではの分析がありました。

次に、本日のお話を受けて、例えば地図情報について、農業の ICT 化を図っていくと、日本の農地は分かれています、今日御出席いただいた方の農地も 18 カ所に分かれています。なのでですけど、さらに気象条件によって作柄も収穫量も変わってくるので、その情報をどういう風に得ることができるのか、政府としても応援してほしいというリクエストがありましたので、関係閣僚から担当部分についてしっかり取り組んでいくという発言がありました。

その後、総理から発言がございました。詳細は、後ほど事務方から報告させます。

本日の議論の結果、豊橋市の佐原市長がやろうとしているようなスポーツ・アリーナを 2025 年までに全国で 20 か所整備していく。また農業 ICT の利用加速、大学の情報インフ

ラ強化の政策が総理の御指示で進んでいくことになりました。

これが山森農園で作っているジュースです。総理も飲んで「私は人参ジュースが大好きだ」と仰っていました。甘いだけでなく酸味がきいているそうです。私は飲んでいないのですが、ここに持って参りました。人参についても会議の場にディスプレイされていて、見たことのない色の人参もありました。私からは以上です。

2. 質疑応答

(問) ローカルアベノミクスについて伺います。アベノミクスの効果がなかなか地方に広まっていないという指摘があるかと思いますが、大臣はどのような点が課題だと思われれますか。

(答) ローカルアベノミクスについては、地方創生という形で、石破前大臣がいろいろと取り組んでこられたと思いますが、インバウンドはひとつ大きい地方活性化の起爆剤であることがわかってきました。何十か所にはなっておらず、十何か所かと思いますが、例えば熊本などでは、私も見てまいりましたが、八代海に船を入れるのは、満潮と干潮の差が激しく大変難しいのですが、そこを海保が協力し、初めて船が来るときに港に着岸させる。それによって次から船は自分で来られるようになります。また、八代では、街をあげて、護岸に人が集まってそこで名産品を売るようなのですが、そうすると一日で5000万円ほどの売り上げがあるそうです。このようなことが日本の十何か所で起こっている。

このような事例の積み重ねに加え、本日議論した農業のポテンシャルも非常に高いと思います。昨年私も農産物の輸出のプロジェクトをさせていただきましたけれども、東南アジアの国々などに行くと、例えばみんなでイチゴを売っていて、振り向くと後ろで違う県の人と同じものを売っている。梨や桃についても同様です。そこをトータルで、政府の方でうまくアレンジできないか。JETROにうまくかんでいただいて、そのようなプロジェクトも始まりました。例えば、その時に話題になったのですが、日本のイチゴはやわらかいですから、マーケットで買っても1週間もするとふにゃふにゃになってスカスカになってしまう。飛行機で輸出をすれば良いのですが、コストがかかる。船だとアジアの国々でも1週間くらいかかる。それに耐えられるイチゴを作ってはどうかと言ったところ、もうできまして、長崎の南島原市にある加津佐苺組合というところで作ってくれたのですが、手で触っても非常に硬く、色もさくらんぼとアメリカンチェリーくらいの違いがあり少し濃いのですが、味は日本のイチゴです。約1か月前に採ったイチゴと3、4日前に採ったイチゴをブラインドで食べてみても、ほとんど差がありません。このようなものはローカルアベノミクスで大きな商品になるのではないかと思います。これはイチゴの例ですが、マンゴーなどの取組もあります。こういうものが日本全国にありますので、有望なのではないか。日本酒についても、福島ですけれど、飲ませていただきまして、ちょっと甘くて、スパークリングなものでした。これも地元の方が作って、何億円という収益を上げている。やはり地道な努力が必要なのではない

でしょうか。